

# Case Study

支部ケース・スタディ

四国支部

## 徳島県内CATVの共同情報発信

### ケーブルテレビ徳島(株)

取締役 番組編成部長 兼 番組制作部長

中山 哲也



### 徳島県CATV業界の現状と背景

徳島県内には自主放送を行うCATV局が16局存在しています。純粋な民間企業から第三セクター、農事放送、自治体など経営形態や規模は様々です。徳島県はご存知の通り民放1局地域で、在阪民放の区域外再放送を見るためにほとんどの市町村でCATVのサービスが展開され、加入世帯で約299,000世帯、世帯普及率は89.8%となっています(平成29年3月現在、四国総合通信局統計より)。各局は自社スタッフで日々地域に密着した自主番組を制作しています。徳島県全体でみると、番組制作スタッフや機材は比較的豊富にそろっている地域と言えるかもしれません。

このような環境もあって、局同士での機材の融通やスタッフの応援など、番組制作の現場では一緒に番組を制作することが頻繁に行われてきました。またインフラ面で見ると行政の支援もあり県内CATV局のほとんどがFTTH化を完了させています。我々は早くからこの光ファイバー網を相互接続して、広帯域かつ広域の独自映像伝送ネットワークを構築してきました。

半面、徳島県は全国に先駆けて少子・高齢化が進み、加入世帯の減少がそう遠くない将来やってくるとらえています。また競合他社との競争も激しく、我々の最大の武器であるコミチャンを、どうやってさらに魅力的なものにしていくかが県内CATV局の共通の課題でもありました。

今回は、このような状況下で2015年に開始した全県共通第2コミチャン「けーぶる12」の取り組みと、それにまつわる番組の共同制作の事例についてご紹介いたします。

### 徳島県内共通の第2コミチャン「けーぶる12」

2015年4月から徳島県内CATV共通の第2コミチャン「けーぶる12」の放送は始まりました。それまでは徳島県内のCATV局で第2コミチャンを放送している局は4局しかありませんでした。コミチャンを1チャンネルしか持っていない局は、議会中継やスポーツ中継などに対して柔軟に編成できる2つ目のチャンネルの必要性を感じていました。また、高校野球の生中継などは、同じコンテンツを放送するのに、それぞれの局でマスター送出の要員が必要となり、このような非効率なやり方を改善したいとのニーズが高まっていました。そして2014年夏に徳島県CATVネットワーク機構で本格的な協議をはじめ、そこから放送開始に向けて具体的な作業に移っていきました。

設備面では、光ファイバーによる映像伝送ネットワークの集積地が当社となっていることもあり、当社のAPCを使い番組送出を行うこととなりました。各局には余分な設備を置かないようにOFDMに変調してRFで各局に配信する方式をとりました。「けーぶる12」では、データ放送や文字放送も行っています。これらの設備の他、MUXやOFDM変調器はすでに第2コミチャンを放送していたキューテレビの既存設備が活用できることとなったため追加投資を極力抑えることができました。すでに第2コミチャンを放送していた一部の局はベースバンドで映像伝送し、自局の既存設備でOFDM変調して送出する形をとっています(図表1)。

#### <全県共通第2コミチャンの概要>

- 名称 : けーぶる12
  - 放送CH : 121ch
  - 内容 : 自主制作番組、文字情報、データ放送\*
  - 配信方式 : RF配信(14局)、ベースバンド配信(2局)
  - 放送開始 : 2015年4月
  - 参加局 : 阿波市ケーブルネットワーク、池田ケーブルネットワーク、石井CATV、エーアイテレビ、かみいたテレビ、キューテレビ、ケーブルテレビあなん、ケーブルネットおえ、県南テレビ、国府町CATV、テレビ阿波、テレビトクシマ、テレビ鳴門、那賀町ケーブルテレビ、日本中央テレビ、東阿波ケーブルテレビ
- ※一部のベースバンド配信局はデータ放送なし

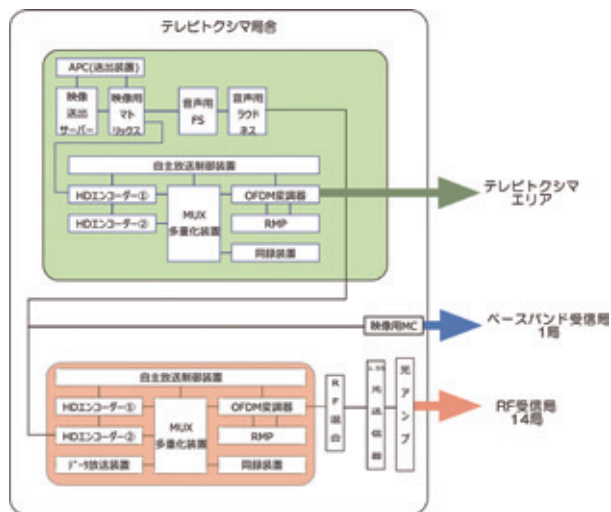
## 「けーぶる12」のコンテンツ

「けーぶる12」で放送する番組は、各局が制作した番組で編成されています。大別すると

- (1)各局制作のレギュラー番組
- (2)各局制作の長尺番組・中継番組
- (3)徳島県CATVネットワーク機構で行う共同中継番組



「けーぶる12」の浸透を図るため  
ロゴマークを制作



図表1 「けーぶる12」のシステム構成

レギュラー番組は毎週や毎月定期的に制作している番組です。地元のニュース番組や情報番組、定期的に制作している企画番組などです。これらは各局が自局エリアの視聴者向けに制作した番組なので、NHKや民放では放送されにくい超ローカルなネタが満載です。これは、小さなエリアを対象としているケーブルテレビが集まってチャンネルを作り上げた大きなアドバンテージではないでしょうか。

長尺番組は各市町村で行われたお祭りやイベント、舞台物の収録番組などが中心です。各局制作の生中継番組もいくつかあります。高校スポーツ(バスケ、ラグビー)や市民マラソンなどのスポーツが中心ですが、今年の10月には県西部の吉野川を舞台に日本で初めて開催された「ラフティング世界選手権(池田ケーブルネットワーク制作)」の生中継を放送しました。



ラフティング世界大会2017の様を生中継。世界レベルの番組制作も手掛ける

徳島県外の方はあまりご存じないかもしれませんが、徳島が誇る「阿波おどり」は、実は県内の街々で開催されています。みなさんがよく目にする阿波おどりは「徳島市阿波おどり」で県内最大規模。前後して「鳴門市阿波おどり」、三好市の「いけだ阿波おどり」が開催されています。「けーぶる12」では8月12日～15日の徳島市に加え、8月9日～11日はテレビ鳴門、16日は三好市の池田ケーブルネットワークが制作した阿波おどり中継を放送しています。「徳島市阿波おどり」のように規模も大きくニーズが高い番組は「徳島県CATVネットワーク機構」の共同事業と位置づけ、全局参加の共同制作で行っています。



共同中継番組の現場では「けーぶる12」の放送をアピール  
(写真は阿波おどり中継)

## 「けーぶる12」を機に開始した情報番組『まるっと！とくしま』

「けーぶる12」の立ち上げの際に、なにか新たな番組を制作しようということになりました。そこで始まったのが『まるっと！とくしま』という情報番組です。これは16局を「県西」「県北」「県央」「県南」と地域別の4グループに分けて制作しています。内容は、そのエリアのニュースやイベント紹介、企画VTRで構成されています。

これまで自局の中だけで行っていたことを、地域も離れ、やり方も違う別の局と毎週番組を作るとなると、さまざまな課題も出てきました。ニュース素材のナレーションの入れ方、テロップのデザイン等の細かな部分の統一作業がどうしても必要となり既存素材をそのまま利用するというわけにはいきませんでした。

## 「ケーぶる12」の効果が最大限発揮された番組『全部やります！高校総体』

「ケーぶる12」の目玉コンテンツの一つとして「高校総体」を収録・放送しています。徳島の場合、ほとんどの競技が6月初めの4日間に集中して行われます。しかも競技会場は県内各地に散らばっていて1局で対応できるものではありません。そこで最初は、地元の高校が試合会場となっている競技をそれぞれの局が対応可能な範囲で収録することとし、最終的には「全競技の収録」を目指して取り組みを始めました。2013年に開始しましたがこの時はまだ「ケーぶる12」での放送ではありませんでした。

「全競技の収録」の目標を達成したのは意外と早く、取り組みから2年後の2015年でした。ちょうど「ケーぶる12」の放送を開始した年でした。以降現在に至るまで開催競技のすべてを収録・放送しています(図表2:平成29年度 高校総体収録競技)。

高校総体は収録自体も大変ですが、取り組みを始めて問題となったのが放送枠と素材の交換です。取り組み当初、コミチャンを1チャンネルしかもっていない局の中には、あまりにも尺をとりすぎて全競技放送しきれない局が出てきました。また、素材の交換についても、それぞれ16局がアップロードとダウンロードを繰り返すため、サーバと回線がパンクし、番組交換に支障をきたすようになってきました。

しかし「ケーぶる12」を開始してからは状況が一変し、編成・放送に関する負荷が一気に軽くなりました。必要以上のファイルのやり取りがなくなったおかげで、回線の混雑が激減しました。また、各局とも編成作業をしなくてもよくなったことに加え、共通編成となったことでHPでの周知や新聞広告なども共同で実施できるようになり、インパクトのあるプロモーションが展開できるようになりました。

この取り組みは地元の教育関係者や、選手の家族、各競技関係者からも非常に高い評価をいただいています。また一般の視聴者からも、めったに見ることがないマイナーな競技の様子が知れて面白いといった声もいただきました。『ぜんぶやります！高校総体』は各局の頑張りど、「ケーぶる12」の機能がとてもいい形で結実したコンテンツだといえます。

競 技	収録局
陸上競技	テレビトクシマ、阿波市ケーブルネットワーク
水泳	テレビトクシマ
体操(男子・女子)	ケーブルネットおえ
新体操(男子)	ケーブルネットおえ
新体操(女子)	東阿波ケーブルテレビ
卓球	石井CATV
バスケットボール	テレビトクシマ・テレビ鳴門、国府町CATV・かみいたテレビ・キューテレビ
バレーボール(男子)	テレビトクシマ
バレーボール(女子)	東阿波ケーブルテレビ
ソフトテニス	テレビトクシマ
サッカー	テレビトクシマ
ラグビーフットボール	テレビ鳴門
ソフトボール	テレビトクシマ
相撲	エーアイテレビ
柔道	日本中央テレビ
剣道	県南テレビ
弓道	日本中央テレビ
ウェイトリフティング	テレビトクシマ
レスリング	テレビ阿波
登山	テレビトクシマ、池田ケーブルネットワーク
バドミントン	ケーブルテレビあなん
ハンドボール	石井CATV
ホッケー	ケーブルテレビあなん
自転車	テレビトクシマ
テニス	テレビトクシマ
ライフル射撃	国府町CATV
空手道	キューテレビ
ボクシング	ケーブルネットおえ
カヌー	那賀町ケーブルテレビ
なぎなた	キューテレビ
フェンシング	テレビトクシマ
ボート	テレビトクシマ
少林寺拳法	池田ケーブルネットワーク
アーチェリー	エーアイテレビ

図表2 平成29年度 高校総体収録競技

## これまでの効果と今後に向けて

「ケーぶる12」を始めたことで、さまざまな効果が表れてきました。

- ・中継番組を「ケーぶる12」で放送するようになり、各局での待機人員を削減できた。その分現場スタッフを手厚くでき、番組内容の充実が図りやすくなった。
- ・文字放送の共通化で各局の文字放送制作業務が軽減できた。
- ・他エリアの番組を放送することで、視聴者を今までとは違うきっかけでコミチャンに誘導できた。
- ・共同制作の機会を増やしたことで、お互いが刺激を受け意見交換も活発になった。

1社ではできないことも、みんなでやればできることも多くあり、また、インパクトも大きくなります。今後も力を合わせ番組制作力の底上げを図り、業界全体の競争力強化につなげていきたいと思えます。